

にしかみのみや

西上之宮遺跡出土の人物埴輪の初公開

西上之宮遺跡（伊勢崎市西上之宮町）で、古墳の周堀から保存状態のよい人物埴輪が発見されました。10月28日（水）から群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館2階展示室で初公開を行います。

1 発見の意義

- ・西上之宮遺跡では、利根川河川改修事業に伴って令和2年度から発掘調査が行われ、これまでに11基の古墳が発見されています。
- ・人物埴輪は襷^{たすき}をかけた巫女を表現し、頭部から胴体部が残存しています。
5世紀後半につくられ、群馬県内でも古い段階の人物埴輪として貴重です。
- ・人物埴輪が発見された1号古墳からは、舟形石棺の一部が出土しており、古墳群のなかでも中心的な古墳とみられます。

2 公開

- ・この人物埴輪は、10月28日（水）に（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団が開催するイベント「公開普及デー」に合わせ、同日から1か月間、群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館2階展示室で公開します（土曜日休館）。
- ・発掘調査現場の一般公開は予定していません。

3 問い合わせ先

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査部
〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田 784-2
電話 0279-52-2511

【補足】

1 西上之宮遺跡について

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団では、一級河川利根川（伊勢崎・玉村工区）の河川改修事業に伴い、令和2年度から西上之宮遺跡の発掘調査を行っています。

西上之宮遺跡では、これまでに5～6世紀の古墳が11基確認されています。このうち1号古墳は5世紀後半に造られた古墳で、古墳群のなかでも最大規模です。墳丘長は約45～50m、周堀の幅は約18mあり、舟形石棺の蓋が出土しています。

令和8年度は、利根川に接する1号古墳の南端部分を調査し、1号古墳は当初は円墳とされていたところ、造り出し部をもつことが明らかとなりました。今回の人物埴輪は、この造り出し部から周堀に転がり落ちた状態で見つかりました。

2 1号古墳出土の人物埴輪について

人物埴輪は頭部から胴体部分が出土しており、残存している高さは約40cmです。

髪型はいわゆる古墳島田（髷）であり、女性（巫女）であることが分かります。頭頂部は粘土紐を張りつけ、髪を縛っていることを表現しています。右手首には粘土と赤彩で腕輪を表現し、左手首は赤彩のみで腕輪を表現するなど左右で微妙な表現の違いがあります。手には指の表現があり、鼻の穴も穿孔によって表現するなど、遠くからは見えない細部にまでこだわって作成したことが伺えます。

胴部には右肩から左肩にかけて赤彩されたタスキを掛けています。左手には棒状の祭具をもっていますが、詳細は不明です。

赤彩された箇所注目すると、タスキや髪を結う紐、手首の腕輪など、装飾品や身に着けた祭具を赤彩するほかに、顔にも赤彩を施しています。

人物埴輪は5世紀前半頃に畿内で登場し、群馬県内では5世紀後半頃から確認されます。この人物埴輪は、県内でも古い時期の人物埴輪として、保存状態もよく貴重なものです。



写真1 西上之宮遺跡4区全景（東から） ※青線は1号墳、赤丸は人物埴輪出土位置



写真2 1号墳出土の人物埴輪（残存長約40cm）